# 相ノ木っ子だより

令和３年度
12 月号
上市町立
相ノ木小学校

## 大きなお世話？魔法の言葉？

校内を回っていると、体育館から「バン！バン！」という大きな音と歓声が聞こえてきました。覗いてみると、６年生が跳び箱の開脚跳びに挑戦している最中でした。初冬の寒さも忘れるぐらいの熱気を帯び、真剣に跳び箱に向き合う子供たちの様子をわたしはしばらく眺めていました。すると、跳び箱の中ぐらいにまたがることを繰り返し、しきりに首をかしげている男の子の姿がありました。「何で俺はできないんだろう」と心の中で言っているかのようでした。他の子は、勢いのある開脚跳びで楽しそうに跳び越しています。その子は、しっかりとした助走、勢いのある踏み切りもしているのですが、なかなか跳び越せません。「運動には自信があるのに、何度やってもできないのはなぜなんだろう」と、不思議そうな表情を男の子は浮かべていました。

「ゆっくり手を着かれ」

我慢できなくなったわたしは、横に近づいて彼にそうつぶやきました。半信半疑の様子ながら、目でうなずくと、その子は助走に入りました。わたしのつぶやき通り跳び箱への着手を少し遅らせると、跳び越せませんでしたが跳び箱の奥の方にまたがることができました。その瞬間、ぱっとその子の表情は変わりました。「いける気がする。何だ、そんなことだったんだ」と言っているかのようでした。わたしは、その表情に安心し、体育館を後にして他の学年を見回ることにしました。やがてその時限も終わり頃となり、やはり気になったわたしは、もう一度体育館に向かいました。授業のまとめとして、一人一人友達の前で技を披露していて、ちょうどその子の開脚跳びを見ることができました。見事に跳び越し、満面の笑みを見せていました。

わたしたちは、子供たちにあまり手をかけ過ぎないよう気を付けています。やはり自分で気付いたり、友達と教え合ったりすることが大事ですし、自分で乗り越えたという感触がよりしっかりと学びを定着させるからです。でも、特に体育科等の芸能教科では、技の基本というものが重要になってきます。それを意識して練習を積み重ねないと、本人がどれだけがんばってもなかなか「できた」まで行きつきません。ですから、跳び箱運動のような克服型の運動では、技の基本をきちんと教える必要があります。ただ、あれもこれもと教え過ぎるのはよくありません。子供の意識を変える後押しとなり、自分の力で乗り越えた達成感がもてるよう、教師や友達の手本を見せたり、ヒントとなる言葉を投げかけたりするぐらいがいいのです。それらを見聞きする中で、子供たちが自分で解決、克服していくべきものだと考えます。

ただし、そういった手立ては、子供自身が自分を高めようとする思いがなければ何の意味もありません。願いや思いがない時に言葉かけをしても、大きなお世話、とても邪魔なお節介にしかなりません。ですが、子供が何か手はないか悩み、模索している時にささやくアドバイスは、魔法の言葉となり得ます。同じ子に同じ言葉を投げかけたとしても、大きなお世話と魔法の言葉ではずいぶん違いますよね。ですから、「ちょっとやってみるか」「もっとできるようになりたい」といった学びへの興味・意欲を沸き立たせることがまず大事なんです。そして、子供たちの様子をよく見て、思いを推し量って、タイミングよく関わってあげることがさらに重要となってきます。

漫画家のはらたいらさんは、次のように言っています。

*教育っていうのは、まず楽しませて、興奮させて、そして教える。*
*ところがその、楽しませる、興奮させるところをやらないで、*
*いきなり教えに入るから子供にとって一番大事なところが欠けてします。*

我々大人が子供たちにかける言葉の内容やかけ方、時と場って本当に大事だと思います。大きなお世話と思われることを怖がらず子供たちと接していきますが、やはり子供たちにはいろいろな人から送られる言葉にたくさんの魔法を感じてほしいものです。

# 借りをつくり、借りを返す

「まだ時間早いよ。遊んでこられよ」

まだ昼休みが終わってもいないのに、清掃場所に来て掃除の準備を始めている１年生の子供たちがいます。担任の先生から前述の言葉をかけられても、何だかうれしそうにたたずむばかりで、掃除が待ち遠しい様子です。１０月から縦割り清掃を再開しました。縦割り清掃に初参加の１年生は、学年清掃とはまた違った姿を見せてくれます。学年での掃除では、友達とじゃれ合う姿が多少ありましたが、縦割りだとちょっとした緊張感をもちつつ、意欲的に清掃しています。掃除の仕方を教わるなど、上学年の子供たちと関われることがきっと楽しいのでしょう。また、お兄さん、お姉さんたちに褒めてもらおう、認めてもらいたいといった思いがあるのかもしれません。

また１年生だけでなく、どの学年の子も互いの役割を意識しており、どの班も協力しながら一生懸命に取り組んでいます。もちろん班のリーダーとして取り組む６年生は、きちんと指示を出しながらみんなをまとめています。他の学年の子供たちも、下の学年の子に教えてあげたり、サポートしてあげたりといった姿が見られます。教え合い、互いの力を合わせる関係性の中で、子供たちはぐんと成長していきます。同時期に再開した各学級の給食当番でもそれは言えます。本来の方法である学級の給食当番が配膳し、みんなで協力しながら給食をとっています。やはり学級で準備、後片付けしている給食の方が、子供たちは生き生きとしていますし、よりおいしそうに食べている感じがします。

これらは学校で引き継がれている素敵な伝承であり、ようやく全校で取り組めるようになったことがとてもうれしいです。わたしたちも小さい頃、上の学年の先輩方からいろいろなことを教わりました。意識的に受け継がれるもの、無意識に伝わるものを問わず、学校の伝統だったり、遊びの伝承だったり、人から人へつながる文化や思いは、自分たちを大きく成長させてくれました。このコロナ禍にあって、人と人とがつながることが難しくなってきていますから、余計に大切にしなくてはいけないと考えます。

先月号でも引用させていただきましたが、放送作家の永六輔さんはよい言葉をたくさん遺しています。次の言葉もその一つです。

*生きているということは*
*誰かに借りをつくること*
*生きてゆくということは*
*その借りを返してゆくこと*

人はたくさんの方のおかげで生きていけるし、誰かの役に立とうとすることで力強く生きてゆけるのです。それが、人と人とのつながりの根本であり、社会の中での一人一人の成長なのでしょう。子供たちにとって基本的で小さな社会である学校は、子供たちが生き方を学ぶ大事な場であります。これからも、子供たちがつながる活動をでき得る限り実践し、子供たちの自主性、一人一人の責任感、学年間や学級内での協力性、あらゆるよさを伸ばしていきたいです。

## 行事予定（１２月中旬～１月中旬）

１２月１６日（木）　いのちの教室（５年）
２３日（木）　地区児童会
２４日（金）　第２学期終業式
２５日（土）　冬季休業（～１／１０（月））

１月　１日（土）　元日
１０日（月）　成人の日
１１日（火）　第３学期始業式　校内書初大会